



# 信濃教育会報

第1135号

令和8年3月15日発行

目次	
第4回臨時総会報告……………2～3	産育休中教職員セミナー報告……………8
収支予算書……………4～6	災害見舞金改正のお知らせ……………9
代議員選挙公示……………7	職員録入力にかかわるお願い……………9
教師塾A報告……………8	ふるさとの大地PR……………10
アフタヌーンセミナー報告……………8	100年館の絵……………10

## 信濃教育会 防災教育研究調査委員会から ～地域と学校がつながり、子ども自らが創り出す～

地域に出て 地域と学ぶ 防災学習



### 生徒の感想

○東日本大震災の時の「釜石の奇跡」は、日頃の避難訓練と中学生が率先して動いたからこそ、周辺の人たちはほぼ全員が無事だったと聞いた。自分も率先して動く、可能な範囲で手伝う…。そんな中学生でいたい。

令和6年1月1日には、最大深度7を観測した能登半島地震が発生しました。発災後、2年という時が過ぎようとする昨年11月、能登半島の震災地を訪問する機会を得ました。現地は、傾いたままの電柱、破壊された防波堤、液状化により突き出したマンホール等が依然残っており、復興にはまだ程遠い状況でした。

訪問した学校では、校庭に仮設住宅が設置されている中、施設見学とともに学校長よりお話をお伺いしました。その中で「教育を止めない」「子どもたちの心のケアを最優先」との言葉に、1校を預かる学校長としての確固たる信念が伝わってきました。

防災・減災に関しては、日頃の準備が大事だということはわかっていますが、「災間」ともいえる日常において発災時の備えは大丈夫かと問われて、「十分です」と即答できる人は少ないと思います。今まで積み重ねてきた「備え」を災間だからこそ、日頃からブラッシュアップしていくことを心がけておきたいものです。

本委員会での実践は、通常の避難通路が発災により封鎖された状況での避難訓練、児童生徒の主体的な学びを大事にした防災学習、地域と連携した防災学習等、いままでの防災学習の枠を一步踏み出した視点での実践が掲載されています。  
(「はじめに」より)



**各校に1冊、防災教育実践集を配布しました。ぜひ、ご一読いただければ幸いです。**

## 郡市教育会と信濃教育会が連携し、 共に学ぶ気風を校内外に培っていききたい

令和7年度第4回臨時総会を2月3日（火）に行った。代議員数48名中44名の出席者により開催し、4つの議案が全て承認された。意見交換では、「年度末から年度初めの信濃教育会会員増への取組」をテーマに、各学校や郡市で何をどのようにしていくことがよいかを話し合った。以下臨時総会の概略を報告する。

### 【大日方会長あいさつ】

#### ○節分、そして立春に想う

昨年9月、軽井沢の大賀ホールにて「信州唱歌童謡の全国大会」が開催された。また、全国大会での入賞者による記念コンサートが、先日、長野市のホクト文化ホールで開催された。

記念コンサートで歌われた曲目は、草川信の「夕焼け小焼け」、高野辰之の「朧月夜」「ふるさと」、海沼實の「里の秋」など、長野県に縁の深い作詞家・作曲家の作品が中心だった。改めて、私共信州が「日本人の心のふるさと」とも言われる唱歌童謡の普及に果たしてきた役割の大きさを実感した。

季節柄、特に印象に残ったのが「早春賦」だった。この曲は、作詞：吉丸一昌、作曲：中田章による。大分県出身の吉丸氏は、旧制大町中学校の校歌制作のために訪れた際に見た、安曇野周辺の雪解けの風景に深い感銘を受け、この詞を作ったと伝えられている。

「春は名のみ 風の寒さや …」と始まるこの歌は、立春を過ぎた頃の情景と、春の訪れを待ちわびる心情を描いている。そして、歌詞は「谷の鶯は 歌は歌えど 時にあらずと声も立てず…」と続く。歌全体を通して、暖かさや寒さを繰り返しながらやがて春へと向かっていく自然の営みも表現されている。しかし、この歌には、もう一つの意味が重ねられているようだ。吉丸氏が生きた明治時代は、近代国家としての発展を目指し、前進と停滞を繰り返しながら近代化を模索し続けた時代だった。そうした社会状況と、早春の揺れ動く季節感が重ねられ作詞されたとのこと。作詞時の社会状況に目を向けることで、歌「早春賦」の奥行きが一層増してくる。

どの唱歌童謡にも、美しい日本の原風景、美しい日本語、そして美しい「日本人の心の文化」が宿っている。

貴重な財産を歌い継ぐことで、日本の素晴らしい音楽文化や日本人の心を後世に伝えていきたいと思う。

#### ○次年度に向けたお願い

今年度、各代議員の皆様には本会事業の推進にあたり大変お力添えをいただいた。改めて感謝を申し上げます。

次年度に向け、年度末から年度当初にかけての業務が円滑に進むよう、引き続き協力願いたい。特に、次年度郡市教育会を背負われる方々には、今年度の成果と課題を基に、見通しをもって年度末の業務にあたってほしい。

教育会の抱えている重要課題は、会員減に歯止めをかけ、会員増に繋げていくことである。教職員一人一人に教育会の存在意義を伝えるために、郡市教育会と信濃教育会が連携し、共に学ぶ気風を校内外に培っていききたい。教職員には理屈を伝えるのではなく、良さを実感していただくことが重要。それには時間が必要。年度末から年度当初に向け、じっくりと具体的話や信教作成の動画等も使いながら、丁寧に熱く思いを込めた声がけをしていきたい。

### 【議 事】

#### (1) 第1号議案「令和8年度公益社団法人信濃教育会事業計画(案)の承認」に関する件

○ベテランも若手も日々の実践に誠心誠意当たっているが、目の前のことだけで見方・考え方が狭くなる。そのようなとき、信濃教育会の大会や講座に参加することで視野を広げることが必要で、ありがたい。信濃教育会の取組と郡市の取組を整理して紹介していきたい。

○若手の参加を促すために、例えばリーフレットやチラシに付箋をつけて回覧したりしている。若手教職員のニーズをとらえた講習・講座等の事業展開は引

き続き大事にしてほしい。若手が、「こういうことをやりたい、やらせてほしい」と言える雰囲気を作っていきたい。

○本年度「学び創造研究会」に取り組み、生徒の生き生きとした姿に出会えてよかった。助成金があったので、探究的な学びでやりたいことがどんどん広がった際に対応できた。学校の主体性が生きる事業を大切にしてほしい。公開の期日については、幅を持たせていただきたい。

○本郡市では、3つの「学び創造研究会」の公開があった。自由進度学習に取り組んだ学校の公開に参加したが、直接見て学ぶ機会は大変よかった。期日の設定により、行きたいけれど行けないということがあったので工夫願いたい。

- (2) 第2号議案「令和8年度公益社団法人信濃教育会収支予算(案)の承認」に関する件
- (3) 第3号議案「令和8年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み(案)の承認」に関する件
- (4) 第4号議案「新規有価証券購入の承認」に関する件

## 【報告・連絡】

- (1) 令和7年度「極意」伝承道場の受講証の配付
- (2) 令和8年度年間行事予定
- (3) 会報3月号掲載の代議員選挙公示について
- (4) 教師塾Aについて
- (5) 令和8年度雑誌『信濃教育』の発刊について
- (6) 教育実践誌「ふるさとの大地」発刊について

## 【意見交換】

### テーマ「年度末から年度初めの信濃教育会会員増への取組」について

○会員が増えた学校の取組を聞くと、年度初めに信濃教育会のPVを見たり、校長、教頭だけでなくミドルリーダーが個別に声がけをしたりした。また、学び創造研究会の公開や講習・講座に参加した感想等を紹介して、信濃教育会に対する「いいね」を日頃から発信するようにしていた。日頃の発信に加え、年度末から年度初めの加入の働きかけを改めて丁寧に行いたい。

○7年度は40名ほどの会員増でのスタートとなったが、大きな力になったのは、ミドルリーダーやセカンドリーダーの熱心な働きかけだった。信濃教育会の事業のよさを実感した、ほれ込んだミドルリーダーが、学年主任を巻き込んで声がけしていったことにより会員が増えた学校がある。郡市の代議員会がチャンスになるので、そこでまずしっかりと発信したい。

## 【開会のあいさつ】

本日の臨時総会では、来年度の事業計画と予算に関わる議案4本を承認していただいた。皆さん方の意見も踏まえ、来年度事業を確実に推進して参りたい。また、意見交換では、様々な意見を出していただき、今後に繋がるたくさんのヒントを得ることができた。私は、郡市教育会の活性化と、信濃教育会の会員増は繋がっていると捉えている。共に手を携えていくことが肝要だと考える。本日出された意見を踏まえ、各郡市の代議員会で今後に向けた具体の取組を協議していただき、更に一歩進めてほしい。

1月27日に開催したアフタヌーンセミナーでは、教育研究所の研究員の視察報告を行った。今年度も、研究員6名が先進的な取組をしている学校へ視察に行ったが、当日は、研究員の報告と、報告を受けての岩川所長の助言があった。

岩川所長のコメントの一部を紹介する。

「視察して、『すごい取組をしている』と視察校を別天地としてみてはだめ。『素晴らしい、大胆な展開ができるかどうか』が重要ではない。子どもに関心を向けて、応えようとする中で、自分たちも変われることが、1ミリでもあればいい。自分の学校、自分の授業の中で、何ができるのかという息吹をもらうために、視察研修に行っているはずだ。研究員は幸せ。その時間がいただけたのだから。視察研修って大事。先生方には一年に一回ぐらいは視察研修に行けるといい。校長先生も、いろいろ大変だが、一年に一回ぐらい『どこかに行っておいでよ』と言えるといい。」

代議員の先生方は、自校の職員に「どこかへ行っておいでよ」と背中を押しているだろうか。職員が学校を空れば補充等が大変だが、そこは職員を育てるといふ大事な役割を担っている校長先生方。大局的に見て、職員の研修の場を保障していただきたい。

幸い、信濃教育会には短期視察研修事業がある。視察補助事業がある郡市もあるのではないか。自校の職員が「井の中の蛙」にならないためにも、ぜひ、外の世界を見せてあげたい。

1年間、お疲れさまでした。

# 令和8年度 公益社団法人 信濃教育会 収支予算書

令和8年1月20日 理事会提案 令和8年1月20日 決議  
令和8年2月3日 臨時総会提案 令和8年2月3日 承認

## 公益目的事業収支予算書 (令和8年4月1日～令和9年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	7,710	310	7,400
(2) 受取会費	142,688,600	141,637,500	1,051,100
(3) 事業収益	31,030,500	31,259,500	△229,000
1 購読収益	12,622,500	13,143,000	△520,500
2 受取印税	17,800,000	17,400,000	400,000
3 講座受講料	358,000	466,500	△108,500
4 会館使用料	250,000	250,000	0
(4) 受取負担金	4,350,000	50,000	4,300,000
(5) 受取寄付金	0	0	0
(6) 受取補助金	1,200,000	4,214,580	△3,014,580
(7) 雑収益	1,276,880	1,228,860	48,020
経常収益合計(A)	180,553,690	178,390,750	2,162,940
2 経常費用の部			
【公益目的事業費】	162,819,809	161,341,351	1,478,458
(1) 職能研修事業費	38,144,000	31,743,000	6,401,000
1 研究調査費	2,835,000	3,953,000	△1,118,000
1 委員会費	971,000	1,242,000	△271,000
2 旅費交通費	651,000	303,000	348,000
3 通信運搬費	70,000	453,000	△383,000
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	40,000	68,000	△28,000
6 印刷製本費	580,000	1,234,000	△654,000
7 賃借料	0	100,000	△100,000
8 諸謝金	221,000	463,000	△242,000
9 支払助成金	240,000	0	240,000
10 雑費	62,000	90,000	△28,000
2 福祉教育資料研究調査費	0	0	0
1 旅費交通費	0	0	0
2 通信運搬費	0	0	0
3 支払寄付金	0	0	0
4 雑費	0	0	0
3 教育研究所運営費	3,049,000	3,456,000	△407,000
1 委員会費	80,000	120,000	△40,000
2 旅費交通費	1,579,000	1,770,000	△191,000
3 通信運搬費	70,000	70,000	0
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	100,000	286,000	△186,000
6 印刷製本費	310,000	281,000	29,000
7 諸謝金	770,000	770,000	0
8 支払負担金	40,000	40,000	0
9 雑費	100,000	119,000	△19,000
4 講習講演会費	2,403,000	3,367,000	△964,000
1 旅費交通費	565,000	975,000	△410,000

2 通信運搬費	6,000	30,000	△24,000
3 消耗品費	20,000	133,000	△113,000
4 印刷製本費	0	0	0
5 賃借料	0	0	0
6 諸謝金	533,000	560,000	△27,000
7 支払助成金	1,140,000	1,210,000	△70,000
8 雑費	139,000	459,000	△320,000
5 教育研究大会費	20,275,000	8,990,000	11,285,000
1 旅費交通費	4,990,000	2,010,000	2,980,000
2 通信運搬費	465,000	255,000	210,000
3 消耗品費	505,000	55,000	450,000
4 印刷製本費	2,330,000	130,000	2,200,000
5 賃借料	1,800,000	100,000	1,700,000
6 諸謝金	2,495,000	2,335,000	160,000
7 支払負担金	80,000	80,000	0
8 支払助成金	6,000,000	3,900,000	2,100,000
9 委託費	1,500,000	0	1,500,000
10 雑費	110,000	125,000	△15,000
6 視察派遣助成費	1,511,000	3,916,000	△2,405,000
1 委員会費	200,000	300,000	△100,000
2 旅費交通費	800,000	1,650,000	△850,000
3 通信運搬費	13,000	23,000	△10,000
4 消耗品費	20,000	0	20,000
5 賃借料	10,000	0	10,000
6 支払負担金	350,000	330,000	20,000
7 支払助成金	103,000	1,563,000	△1,460,000
8 雑費	15,000	50,000	△35,000
7 教育会研修助成費	670,000	670,000	0
1 支払助成金	670,000	670,000	0
8 応募型研修助成費	7,401,000	7,391,000	10,000
1 旅費交通費	135,000	145,000	△10,000
2 通信運搬費	20,000	20,000	0
3 消耗品費	60,000	60,000	0
4 印刷製本費	50,000	30,000	20,000
5 諸謝金	56,000	56,000	0
6 支払助成金	7,000,000	7,000,000	0
7 雑費	80,000	80,000	0
(2) 教育図書研究調査事業費	21,392,000	23,043,000	△1,651,000
1 教科用図書研究委員会費	5,783,000	5,489,000	294,000
1 委員会費	3,728,000	3,478,000	250,000
2 旅費交通費	759,000	570,000	189,000
3 通信運搬費	43,000	43,000	0
4 消耗什器備品費	100,000	100,000	0
5 消耗品費	735,000	770,000	△35,000
6 諸謝金	246,000	244,000	2,000
7 雑費	172,000	284,000	△112,000
2 学術図書研究委員会費	15,609,000	17,554,000	△1,945,000
1 委員会費	220,000	230,000	△10,000
2 旅費交通費	100,000	100,000	0
3 通信運搬費	2,500,000	2,500,000	0
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	60,000	60,000	0

6 印刷製本費	9,766,000	11,720,000	△1,954,000
7 諸謝金	1,680,000	1,570,000	110,000
8 期首商品棚卸高	14,600,000	14,500,000	100,000
9 期末商品棚卸高	△14,700,000	△14,600,000	△100,000
10 雑費	1,383,000	1,474,000	△91,000
(3) 生涯学習振興事業費	2,942,000	3,987,000	△1,045,000
1 教育博物館運営費	1,386,000	1,717,000	△331,000
1 委員会費	206,000	185,000	21,000
2 旅費交通費	128,000	438,000	△310,000
3 通信運搬費	110,000	119,000	△9,000
4 消耗品費	130,000	130,000	0
5 印刷製本費	435,000	435,000	0
6 諸謝金	70,000	80,000	△10,000
7 支払助成金	301,000	301,000	0
8 雑費	6,000	29,000	△23,000
2 生涯学習推進支援事業費	1,556,000	2,270,000	△714,000
1 委員会費	0	30,000	△30,000
2 旅費交通費	80,000	120,000	△40,000
3 通信運搬費	110,000	140,000	△30,000
4 消耗什器備品費	0	150,000	△150,000
5 消耗品費	50,000	200,000	△150,000
6 修繕費	150,000	150,000	0
7 光熱水料費	246,000	470,000	△224,000
8 保険料	200,000	200,000	0
9 諸謝金	120,000	100,000	20,000
10 委託費	570,000	570,000	0
11 雑費	30,000	140,000	△110,000
(4) 事業共通費	100,341,809	102,568,351	△2,226,542
1 役員報酬	4,750,850	4,729,950	20,900
2 給料手当	49,673,750	56,435,200	△6,761,450
3 賞与引当金繰入額	2,867,200	0	2,867,200
4 退職給付費用	3,136,000	2,616,606	519,394
5 福利厚生費	8,232,000	9,201,760	△969,760
6 会議費	364,000	375,700	△11,700
7 委員会費	0	0	0
8 旅費交通費	448,000	462,400	△14,400
9 渉外応接費	224,000	231,200	△7,200
10 通信運搬費	560,000	574,000	△14,000
11 減価償却費	11,904,689	8,615,415	3,289,274
12 消耗什器備品費	0	0	0
13 消耗品費	1,120,000	1,148,000	△28,000
14 修繕費	168,000	172,200	△4,200
15 印刷製本費	448,000	462,400	△14,400
16 光熱水料諸費	10,640,000	8,610,000	2,030,000
17 賃借料	840,000	3,468,000	△2,628,000
18 保険料	217,320	217,320	0
19 租税公課	2,228,000	2,994,000	△766,000
20 支払負担金	1,792,000	1,849,600	△57,600
21 雑費	728,000	404,600	323,400
【管理費】	40,632,579	39,065,706	1,566,873
1 会議費	737,150	728,700	8,450
1 総会費	500,000	500,000	0
2 理事会費	80,000	80,000	0
3 監事会費	20,000	20,000	0
4 共通会議費	137,150	128,700	8,450

2 会報発行費	2,695,000	2,695,000	0
1 旅費交通費	40,000	40,000	0
2 通信運搬費	300,000	300,000	0
3 消耗品費	16,000	16,000	0
4 印刷製本費	2,300,000	2,300,000	0
5 諸謝金	34,000	34,000	0
6 雑費	5,000	5,000	0
3 事務費	37,200,429	35,642,006	1,558,423
1 役員報酬	3,731,000	3,630,100	100,900
2 給料手当	16,979,300	17,296,000	△316,700
3 賞与引当金繰入額	1,080,320	0	1,080,320
4 退職給付費用	1,181,600	896,346	285,254
5 福利厚生費	3,451,700	3,152,160	299,540
6 旅費交通費	318,800	508,400	△189,600
7 渉外応接費	184,400	179,200	5,200
8 通信運搬費	261,000	249,000	12,000
9 減価償却費	2,817,689	1,653,980	1,163,709
10 消耗什器備品費	0	0	0
11 消耗品費	622,000	698,000	△76,000
12 修繕費	93,300	89,700	3,600
13 印刷製本費	318,800	308,400	10,400
14 光熱水料諸費	4,009,000	2,985,000	1,024,000
15 賃借料	316,500	1,188,000	△871,500
16 保険料	55,520	55,520	0
17 支払負担金	705,200	663,600	41,600
18 委託費	700,000	700,000	0
19 雑費	374,300	1,388,600	△1,014,300
經常費用合計 (B)	203,452,388	200,407,057	3,045,331
当期經常増減額 (A) - (B)	△22,898,698	△22,016,307	△882,391
他会計振替額	2,811,936		
当期一般正味財産増減額	△20,086,762		
一般正味財産期首残高	289,399,470		
一般正味財産期末残高	269,312,708		
II 正味財産期末残高	269,312,708		

## 出版事業収支予算書

(令和8年4月1日～令和9年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 經常収益の部			
(1) 特定資産運用益	420	16	404
(2) 事業収益	17,100,000	17,500,000	△400,000
1 購読収益	14,400,000	14,800,000	△400,000
2 受取印税	2,700,000	2,700,000	0
(3) 雑収益	3,120	1,470	1,650
經常収益合計 (A)	17,103,540	17,501,486	△397,946
2 經常費用の部			
1 役員報酬	430,620	435,740	△5,120
2 給料手当	3,686,200	3,816,820	△130,620
3 賞与引当金繰入額	215,040	0	215,040
4 退職給付費用	235,200	181,080	54,120
5 福利厚生費	617,400	636,800	△19,400
6 会議費	27,300	26,000	1,300
7 委員会費	170,000	170,000	0

8 旅費交通費	33,600	32,000	1,600
9 渉外応接費	16,800	16,000	800
10 通信運搬費	752,000	751,000	1,000
11 減価償却費	5,561,254	5,349,340	211,914
12 消耗什器備品費	0	0	0
13 消耗品費	103,000	101,000	2,000
14 修繕費	12,600	12,300	300
15 印刷製本費	5,756,600	5,744,000	12,600
16 光熱水料諸費	798,000	615,000	183,000
17 賃借料	63,000	240,000	△177,000
18 保険料	6,640	6,640	0
19 租税公課	928,000	1,060,000	△132,000
20 支払負担金	134,400	128,000	6,400
21 委託費	1,624,000	1,707,000	△83,000
22 雑費	349,600	308,000	41,600
経常費用合計 (B)	21,521,254	21,336,720	184,534
当期経常増減額 (A) - (B)	△4,417,714	△3,835,234	△582,480
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	△4,417,714		
法人税・住民税及び事業税	40,780		
当期一般正味財産増減額	△4,458,494		
一般正味財産期首残高	25,733,331		
一般正味財産期末残高	21,274,837		
II 正味財産期末残高	21,274,837		

### 不動産貸与事業収支予算書 (令和8年4月1日～令和9年3月31日)

(単位=円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	1,590	1,311	279
(2) 事業収益	14,434,600	14,158,600	276,000
1 貸家賃貸料	9,958,600	9,814,600	144,000
2 貸地賃貸料	4,476,000	4,344,000	132,000
(3) 受取負担金	3,000,000	3,000,000	0
(4) 雑収益	100,000	100,000	0
経常収益合計 (A)	17,536,190	17,259,911	276,279
2 経常費用の部			
1 役員報酬	319,210	317,960	1,250
2 給料手当	2,781,750	2,947,730	△165,980
3 賞与引当金繰入額	148,480	0	148,480
4 退職給付費用	162,400	126,756	35,644
5 福利厚生費	426,300	445,760	△19,460
6 会議費	18,850	18,200	650
7 旅費交通費	23,200	22,400	800
8 渉外応接費	11,600	11,200	400
9 通信運搬費	29,000	28,000	1,000
10 減価償却費	5,184,588	4,655,368	529,220
11 消耗什器備品費	0	0	0
12 消耗品費	58,000	56,000	2,000
13 修繕費	208,700	158,400	50,300
14 印刷製本費	23,200	22,400	800
15 光熱水料諸費	3,611,000	3,480,000	131,000
16 賃借料	43,500	168,000	△124,500

17 保険料	152,560	152,560	0
18 租税公課	2,044,000	2,146,000	△102,000
19 支払負担金	92,800	89,600	3,200
20 雑費	137,700	769,600	△631,900
経常費用合計 (B)	15,476,838	15,615,934	△139,096
当期経常増減額 (A) - (B)	2,059,352	1,643,977	415,375
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	2,059,352		
法人税・住民税及び事業税	40,220		
当期一般正味財産増減額	2,019,132		
一般正味財産期首残高	186,941,343		
一般正味財産期末残高	188,960,475		
II 正味財産期末残高	188,960,475		

### 災害見舞金事業収支予算書 (令和8年4月1日～令和9年3月31日)

(単位=円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	44,601,580	42,600,063	2,001,517
(2) 受取会費	2,000,000	2,000,000	0
経常収益合計 (A)	46,601,580	44,600,063	2,001,517
2 経常費用の部			
1 役員報酬	3,049,320	3,033,250	16,070
2 給料手当	12,294,000	13,357,250	△1,063,250
3 賞与引当金繰入額	808,960	0	808,960
4 退職給付費用	884,800	706,212	178,588
5 福利厚生費	2,322,600	2,483,520	△160,920
6 会議費	102,700	101,400	1,300
7 旅費交通費	126,400	124,800	1,600
8 渉外応接費	63,200	62,400	800
9 通信運搬費	178,000	198,000	△20,000
10 減価償却費	1,011,282	282,985	728,297
11 消耗什器備品費	0	0	0
12 消耗品費	316,000	316,000	0
13 修繕費	47,400	47,400	0
14 印刷製本費	126,400	124,800	1,600
15 光熱水料諸費	3,002,000	2,370,000	632,000
16 賃借料	237,000	936,000	△699,000
17 保険料	9,960	9,960	0
18 支払見舞金	10,000,000	10,000,000	0
1 死亡・障害見舞金	6,000,000	6,000,000	0
2 入院・通院見舞金	2,000,000	2,000,000	0
3 自然災害見舞金	2,000,000	2,000,000	0
19 支払負担金	505,600	499,200	6,400
20 雑費	805,400	759,200	46,200
経常費用合計 (B)	35,891,022	35,412,377	478,645
当期経常増減額 (A) - (B)	10,710,558	9,187,686	1,522,872
他会計振替額	△2,811,936		
当期一般正味財産増減額	7,898,622		
一般正味財産期首残高	1,312,426,803		
一般正味財産期末残高	1,320,325,425		
II 正味財産期末残高	1,320,325,425		

公益社団法人 信濃教育会

## 令和8年度 代議員（含補欠員）選挙公示

令和8年3月15日

公益社団法人 信濃教育会 代議員選挙管理委員会

定款に則り、令和8年度の代議員選挙を下記のように実施いたします。

### 記

- 1 本会の正会員であればどなたでも立候補できます。4月1日までに各教育会選出の信濃教育会代議員選挙管理委員会委員（信濃教育会常任委員）までお申し出ください。

令和8年度信濃教育会常任委員が選出されるまでは令和7年度の常任委員が信濃教育会代議員選挙管理委員会委員の責務と権限を有していますが、4月1日以降、申し出先が不明確な場合は各教育会事務局へお申し出ください。

- 2 候補者の受付と公示、投票及び開票の管理・運営は、各教育会の信濃教育会代議員選挙管理委員会委員（信濃教育会常任委員）が行います。

- 3 選挙結果は会報5月号に掲載します。

以上

## ■ 信州教師塾Aについて

### 1 令和7年実施報告

今年度は、5月31日(土)、7月19日(土)、2月14日(土)の計3回実施しました。第1回と第2回は中南信地区の大学生や講師の皆さんの参加しやすさを考えて、信濃教育会館と生涯学習センターの同時開催としました。3回でのべ100名を超える参加者がありました。

#### <参加者の感想>

- ・場面指導、模擬授業ともに、とてもわかりやすく指導していただき、自身の改善点が見つかる2時間でした。
- ・講師の先生方から激励の言葉をいただいて、私ももっと人間力を磨いていこうと思えました。教職に対するモチベーションがさらに高くなりました。



### 2 令和8年度の実施計画

来年度も、今年度同様第1回と第2回は信濃教育会館と生涯学習センターの同時開催とします(第3回は会館のみ)。詳細は信濃教育会ホームページでご確認ください。

## Afternoon Seminar

平日16時から、オンラインで様々な教育課題に対する情報を発信しています。

テーマに造詣の深い識者や現場の先生方をお招きし、実践をお聞きしたりゲストの先生からご示唆をいただいたりしています。また、信濃教育会の取組を紹介したりもしています。柔らかなカジュアルなセミナーになっています。個人、グループ、全職員での視聴、参加が可能です。お気軽にご参加ください。

令和7年度は、次のようなテーマを取り上げて行いました。

- |     |          |   |
|-----|----------|---|
| 第1回 | 5/22(木)  | 信教ナビ ~先生方の疑問に答えます。信濃教育会って何?~                          |
| 第2回 | 6/10(木)  | 新たな時代の教頭職を考える1 ~乗り越えなければならないことは何か~                    |
| 第3回 | 6/17(木)  | 新たな時代の教頭職を考える2 ~前例踏襲を打破する~<br>*第2回第3回は長野県教育委員会との共催で実施 |
| 第4回 | 9/4(木)   | 学び創造研究会を語ろう ~つながる!つながる! 研修の輪~                         |
| 第5回 | 11/27(木) | これからの学校行事 ~児童生徒とともにデザインする~                            |
| 第6回 | 1/27(火)  | 研究所研究員 視察報告会 ~「子どもが自ら学び、育つ」とは~                        |

令和8年度も実施予定です。開催日、テーマ等はその都度、ホームページ、SNS等でご案内します。

## 子育て中ママ&パパ教職員のための 「産育休中教職員セミナー」を開催しました

1月22日(木)10:00~11:00 オンラインにて開催 参加者 34名

「学校復帰を楽しみに、復帰後の不安解消!」を目的に実施しました。内容の一部をご紹介します。

**育休復帰後に利用できる制度**

**部分休業**

どんなとき  
・小学校就学の始期に達するまでのお子さんを養育する場合に利用できます

どれくらい  
・1日につき2時間を超えない範囲で取得できます。取得期間帯の制限なし。30分単位で取得できます。

<復帰後に利用できる制度の説明>

**ご機嫌な暮らし**  
~共働き&共家事~

<産育休・復帰の経験談>

~〇〇する日は、日曜日~

買い物する日は 日曜日  
子どもを預ける日は 日曜日  
送迎の料理は 日曜日  
足りない洗濯 日曜日

<「共働き&友家事のコツ」(資料より)>

参加者の感想

- 〇みんな同じ気持ちで不安なんだとわかり、仲間はたくさんいるんだと励まされました。家族の笑顔を大事に復帰に向けてがんばります。
- 〇制度説明が分かりやすく、経験された先生方の具体的なお話に、何とかやれそう...と気持ちが楽になりました。参加して良かったです。



# 災害見舞金事業（信教災害サポート（SSS））

# 見舞金の一部改正のお知らせ

会員が助け合う相互扶助精神から生まれた災害見舞金事業。持続可能な事業として今後も会員の皆様に広く活用していただけるよう ①災害による「通院による見舞金」（1日あたり） ②自然災害による不動産の損害の上限金額の2点について下記のように改正となります。

■改正前の見舞金額表

見舞金内容	会務遂行中	会務以外	
		61才未満	61才以上
死亡 高度障害	350万円	150万円	200万円
災害による 後遺障害	30～90万円	10～70万円	
災害による入院 （1日あたり）	5,500円	5,000円	5,500円
災害による通院 （1日あたり）	3,500円	3,000円	3,500円
自然災害による 不動産の損害	当該損害金額－10万円 ※上限金額は100万円まで		

■改正後の見舞金額表

会務遂行中	会務以外	
	61才未満	61才以上
350万円	150万円	200万円
30～90万円	10～70万円	
5,500円	5,000円	5,500円
2,500円	2,000円	2,500円
当該損害金額－10万円 ※上限金額は80万円まで		

見直し①

見直し②

通院による医療機関への実際の支払い額は約半数が1,000円未満で現行の見舞金よりも少額なケースが多く、これまで見舞金として支払額に見合った妥当な額を検討してきました。また、自然災害による不動産の上限金額の減額については、今後起こり得る大規模な自然災害にも備えられるようにしたいと考えました。常任委員会や臨時総会で協議を重ね、1/20（火）理事会において上記改正が議決されました。

注）会員災害見舞金規程の施行に関する細則改正は令和8年4月1日より施行されます。

事故発生日が令和8年4月1日以降の場合は改正後の見舞金額となります。（事故発生日が令和8年3月31日以前の場合での4月1日以降の受診・不動産の改修については改正前の見舞金が適用となります。）

## 「長野県学事関係職員録」にかかわるお願い

令和8年度原稿入力・職員録購入の申込みにかかわる日程は下記のとおりです。ご確認ください、作業を進めていただきますようお願いいたします。

### 原稿入力

3月9日【月】 原稿入力にかかわる文書、申込書を各学校へ送付

**3月25日【水】** ユーザコード（ID）をメールで各学校へ送信 入力開始

**4月9日【木】** 午前9時 入力締め切り

**4月20日【月】** 午前8時30分 確認・修正開始（修正入力が可能になります。）

●修正の有無にかかわらず、必ず画面を開いて確認してください。確認後には完了ボタンを押してください。

**4月22日【水】** 昼12時 確認・修正締め切り

### 購入申込み 締め切り

**4月17日【金】** 小・中・義務教育・特別支援学校 → 郡市教育会へ

※高校・大学・各種学校、他 → 4月21日（火）までに信濃教育会へ

### 問い合わせ

[原稿入力について]

[購入申込みについて]

雑誌図書編集部

総務・会計部

電話 026-232-6994

電話 026-232-2470

新刊の  
ご案内

# ふらっとの大地 29

公益社団法人 信濃教育会編

## 共に生きる ～子どもの声を聴きながら～

地域の自然や社会とかかわる子ども——。  
教師の戸惑いや悩み、よろこび——。  
迷いながらも展開していった活動の歩みを素直に記して  
います。

—県下各地の生活科・総合的な学習の時間 実践事例が満載！—

■仕様 B5判・並製・カラー口絵4ページ・本文64ページ ■定価 500円(税込み)



発行／信州教育出版社  
Tel 026-232-0291



取扱い／しんきょうネット  
Tel 026-233-1135 Fax フリーダイヤル 0120-25-1098

### 信濃教育

#### 予告



子ども達が教えてくれたこと

毎日何気なく見ている風景でも、見上げる、見下ろす、近づくなど、視点を変えて見ることで、違った感じ方や面白さ、意外な美しさに気づくことができます。この作品は、『視点の冒険』というテーマで、一人ひとりが描きたい風景を見つけ、表し方に工夫をしながら仕上げたものです。

作者の小松珂穂さんは、美術室から見える外の景色を描きました。観察力が高く、一つひとつの描写がすばらしいです。着彩では、絵の具、色鉛筆、水を手く使って、空の色はグラデーションを用いて広がり表現し、さらに自然な雲の形、カーテンの影、水道台に映る景色までも丁寧に描き込み、質感の違いも表現することができました。光の入れ方も魅力的です。

私は日々の授業で生徒たちの感受性の豊かさに驚かされ、また自らの職業に幸せを感じています。

指導者  
田中 志保 (上田市立第二中学校)

### 100年館の絵

令和6年度 永年保存作品  
今を生きる子どもの絵



「美術室の宙」

小松 珂穂 (上田市立第二中2年)

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人  
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470  
URL <https://shinkyo.or.jp> ✉ [shinkyo@shinkyo.or.jp](mailto:shinkyo@shinkyo.or.jp)  
編集兼発行人／大日方貞一

